

経営比較分析表（令和6年度決算）

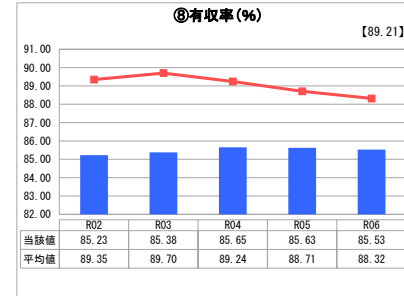
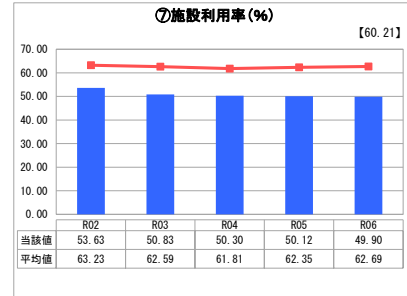
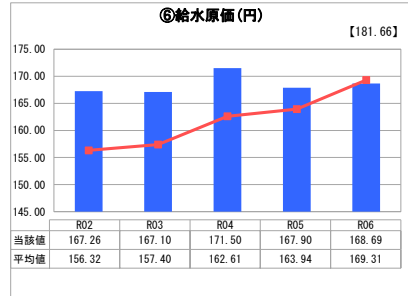
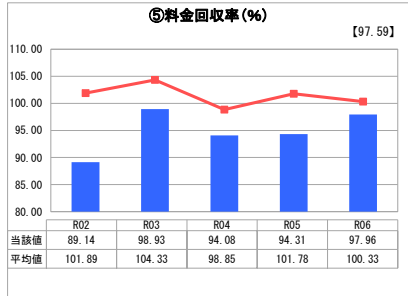
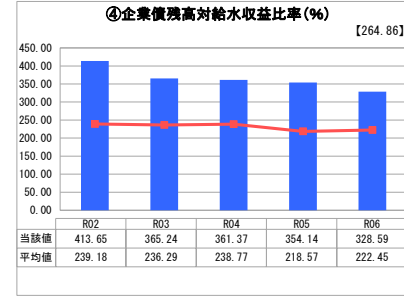
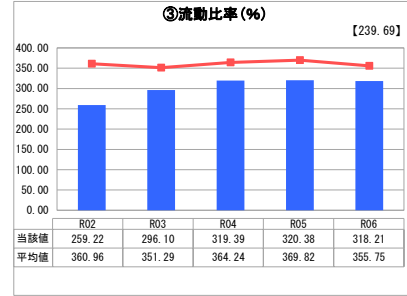
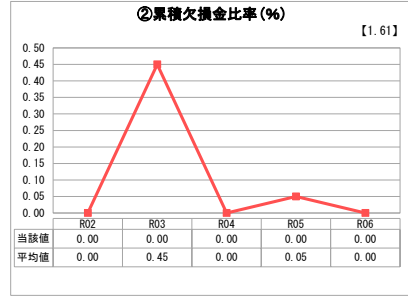
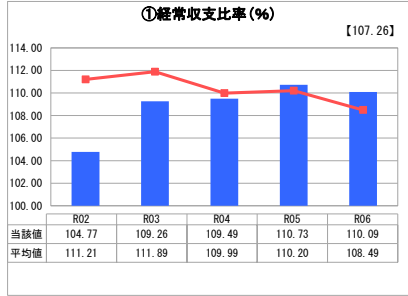
埼玉県 加須市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.39	99.94	2,860	

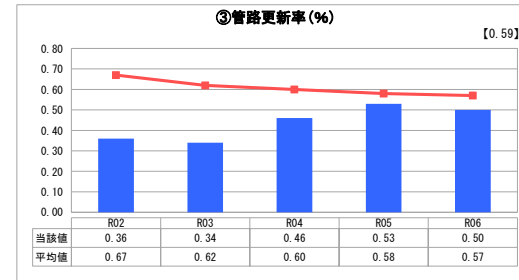
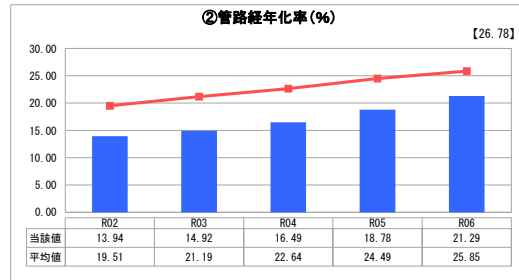
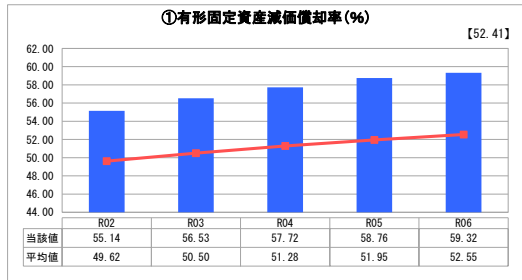
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
112,018	133.30	840.35
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
111,772	133.30	838.50

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率
収益的収支の均衡を示す指標です。100%を超えて推移しており黒字経営を維持していますが、引き続き黒字経営となるよう更なる経費削減に努めます。
- 流動比率
1年以内に支払う債務に対する支払能力を示す指標です。十分な支払能力を有する200%以上の水準を有しており、短期的な債務に対する支払能力があることから、引き続き支払い能力を高めるよう経営改善に努めます。
- 企業債残高対給水収益比率
水道施設を建設する際の借入金残高の規模と水道料金収入との均衡を示す指標です。全国及び類似団体の平均値と比較して超過していますが、減少傾向にあるため、今後の施設及び設備の更新需要などを踏まえ借入額の圧縮など適正な債務残高に努めます。
- 料金回収率
給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。2箇月の水道基本料金免除に伴い、給水収益が減少し100%を下回っており、有収率の改善や経費削減などによる改善に努めます。
- 給水原価
1m³の水を作るのにどれだけのコストがかかるかを示す指標で水道の製造原価です。類似団体平均値とほぼ同額ですが、人口減少や節水型家電の普及等により、年間取水量が微減傾向にあるとともに、物価高騰の影響などから前年度値と比較して微増しており、引き続き効率的な事業運営及び経費の削減に努めます。
- 施設利用率
水道施設の利用状況を示す指標です。施設利用率は50%~53%程度で推移し全国平均より低い状況が続いており、水道施設統合計画(R6策定)に基づき、施設能力の適正化に努めます。
- 有収率
配水量に対する収益に繋がった水量割合を示す指標です。人口密度が低く水道管の老朽化の進行により類似団体平均を下回っているため、引き続き漏水頭を徹底するとともに、老朽管の更新等に努めます。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率
有形固定資産の減価償却の進捗度や資産の老朽化を示す指標です。経年経過とともに増加しており、今後さらに保有資産の老朽化が見込まれるため、計画的な水道施設の更新に努めます。
- 管路経年率
法定耐用年数を超過した水道管の割合を示す指標です。類似団体平均値を下回っていますが、昭和40年代から50年代に布設された多くの管路が更新時期を迎え、管路経年率はさらに上昇することが見込まれるため、計画的な更新に努めます。
- 管路更新率
全ての管路延長に対し、1年間に更新された水道管の割合を示す指標です。指標値が全国平均及び類似団体平均値を下回っているため、水道管の状況を踏まえ管路更新率の向上に努めます。

全体総括

現時点で経営の効率性、財務の健全性は概ね確保されているといえます。
しかし、人口減少や節水機器の普及などに伴う水需要(給水収益)の減少や、物価高騰の影響に伴う施設維持管理費の増加などにより、給水原価が類似団体平均を上回っており、料金回収率も100%を下回っているため、今後も経費削減などに努めます。
また、有形固定資産減価償却率及び管路経年率が増加しているため、「水道管路更新計画(R7策定)」に基づき計画的な施設更新に努めます。
持続可能な水道事業の実現に向け、水道施設の老朽化に伴う更新・修繕費用と、将来の財源(料金収入など)を見通し、中長期的な視点で効率的に施設を管理・更新できるような各種計画を策定し、第2次加須市水道ビジョン(計画期間：令和5年度から令和14年度まで)に掲げる基本理念「将来にわたり安全な加須の水の安定供給」の実現に努めます。